



心も体も満腹に

父の日に思ったこと

6月の第3日曜は父らだき「冷奴」「タコの日」。5月に行われるの刺身「そして祝日だ母の日に比べて蔭の薄からと「桜餅」等々。い存在だった、この桜餅は別としてこれら2、3年商業主義のを短時間につくられ後押しで父の日が家庭

の中で脚光を浴びて来たように思える。とはいえ、中心は母親であることは今までも変わりない。しかし、最近は余り男女の区別がなくなったようだ。

下松教会では原田主任神父が手料理で父の日を祝って下さった。神父の料理上手は定評があり、婦人が手ほどきを受けるほどだ。

今回は「鯛のムニエル」「烏貝(からすがい)の蒸し焼き」「鯛のあ

電話をすればすぐ宅急便で送ってくれる。菓

子箱には「お父さん、いつもありがとう」とあるが、感謝したいのは私の方である。50歳になるが大学やNGOの仕事が忙しく結婚していない。兄弟3人の中心として家族の絆を大切にしてくれることは親として嬉しい限りだ。

さて、フランスの洋菓子マカロンの箱の表紙にはバラの花が描かれている。花の女王といえはバラ。女王の花のようにマカロンも高級の菓子と言っているように思える。

私の心を癒やしてくれるのは、家族をはじめ、地域、教会等の共同体と共に、庭に咲き乱れる花の数々だ。今までは花そのものが癒やしたが、毎日草を取り肥料を施す花と



菖蒲が咲き始めた

数々、残りの方が少なくなった自分の人生を少しでも花と共有できるものになりたい。いや、花だけではない。小さな池の金魚、2つの水槽の赤メダカと白メダカ。神がつくられたこれらは見れば見るほど素晴らしい営みをして



紫陽花(アジサイ)の一種「アナベル」



父の日に送られてきた「マカロン」



道路に面したフェンスに咲く名前はわからないバラ